

7 個人に応じた避難行動・避難生活

7-1 避難時の心得

≡ 避難のポイント(全般)

非常持出品は最小限に!

非常持出品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。身軽に行動できるよう持出品は最小限にしましょう。



自分の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持つ!

特に高齢者や子どもは、事前に防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。



外出中の家族には連絡メモを残そう!

避難前にはガスの元栓やブレーカーを切り、外出中の家族に「〇〇へ避難する」といったような連絡メモを残しておくとい良いでしょう。

集団で助け合おう!

単独での行動は避け、できるだけ近所の方たちと集団で避難場所へ避難しましょう。緊急時は、家族、隣近所、地域の皆さんで助け合しましょう。

緊急車両の通行を妨げないように

緊急車両の通行の妨げにならないよう、徒歩や車の乗り合わせで避難しましょう。



避難所では係員の指示に従いましょう!

避難所に着いたら、住所、氏名を報告し、係員の指示に従いましょう。



≡ 避難のポイント(洪水)

避難のときの靴

長靴は水が入ると歩きにくく危険です。裸足やスリッパも禁物です。なるべく運動靴をはきましょう。



足元に注意

足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖などでつきながら慎重に歩きましょう。



電線に注意

垂れ下がった電線には近づいたり、触ったりしないようにしましょう。発見した場合は、九州電力またはNTTへ連絡してください。



見回りは絶対ダメ

大雨時の田んぼや河川の見回りはやめましょう。



避難路に注意

橋を渡らないようにしましょう。



≡ 避難のポイント(土砂災害)

がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところはがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



土石流のおそれがある場合

溪流沿いの低い土地から離れください。土石流のスピードはとて速いので、土石流を見たら、流れに直角の方向に逃げましょう。



屋外に避難する場合

避難する際は、土砂災害警戒区域等(イエローゾーン・レッドゾーン)を通らないようにしましょう。ハザードマップで区域を確認してください。

屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。

雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも土砂災害が発生するおそれがあるので注意しましょう。

≡ 避難のポイント(高潮)

気象情報に注意

台風接近の数日前から、気象情報や市からの防災情報に注意しましょう。



危険を感じたら早めに避難

屋間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、市から早めの避難を呼びかけます。



海沿いへ様子を見に行かない

高波のみ込まれるおそれがあります。



ひとまず丈夫な高い建物などに避難

水深が膝の高さを超えたら、大人でも歩くのが困難になります。ひとまず近くの丈夫な高い建物などに避難しましょう。



≡ 避難のポイント(津波)

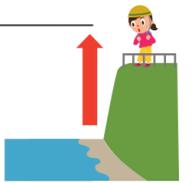
小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が襲来することがあります。



高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。津波ハザードマップの「避難方向」を目安に避難しましょう。



海岸や川には近づかない!

海岸はもちろん、津波は陸地よりも先に川をさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。



率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に周囲へ避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」を言います。率先避難者になることで、それを見ている周囲の方に避難行動を取らせるきっかけになります。



7-2 避難生活の心得

≡ 屋内安全確保(在宅避難)の注意点

今後の防災情報に注意しましょう

身の危険を感じた場合は避難しましょう。

電気

水道

ガス

早い

ライフラインが復旧するまでの目安

遅い

ライフラインが停止した場合を想定しておきましょう

住む場所が安全だったとしても、ライフラインが停止している場合があります。屋内安全確保(在宅避難)をする場合は、数日間(最低3日)の備蓄品などを準備しておきましょう。

電気・ガスが止まった!

- 電化製品が使えない。
- 明かりがつかない。
- ガスが使えない。

卓上コンロやLEDランタンを準備!

水道が止まった!

- 水道、トイレが使えない。

簡易トイレの準備!

車中泊避難の注意点

車中泊避難は、プライバシーの確保、エアコン完備、カーラジオからの情報入手などといった利点がある一方で、エコノミークラス症候群や一酸化炭素中毒など健康上の危険にも十分注意する必要があります。

- 車上荒らしの危険や、ガソリンが入りにくい場合がある。
- 排気音や排気ガスが気になり、長時間エアコンをかけられない。
- 避難者として特定されにくく、支援情報などを把握しにくい。



このポケットの中には

内水ハザードマップが入っています。

その他、防災に関する資料などの保管に活用して下さい。

